

研究ノート

横岳崇福寺跡出土の礫石経（写経石）について

山村 信榮

1 はじめに

太宰府市観世音寺の四王寺山南東裾にある横岳崇福寺跡は鎌倉期に成立した臨済系の禅宗寺院で、関東御家人であった武藤（少弐）資頼を旦那として湛慧禅師により仁治元（1240）年に開かれ、翌年、中国径山の無準師範の下で同門であった円爾弁円（聖一国師）が開堂となり、寛元元（1243）年に官寺となった。室町時代の大内期、大友期においても庇護されたが、天正14（1586）年の岩屋合戦で灰燼に帰した。江戸期に編纂された「横嶽志」に文字による境内図が残され、伽藍と塔頭、境地観を充てた名所が書き込まれ、相互の位置関係を知ることができる。戦後、寺院建築と宅地開発で中心伽藍と塔頭において一部分で発掘調査がおこなわれた（第1図）。そのうち心宗庵の推定地での太宰府市による調査で、五輪塔を用いた鎌倉後期頃から室町期の再葬墓（横1ST200）から、手のひら大の扁平な緑色片岩の川原石に墨書した礫石経（写経石）が複数出土した（第2、3図）。調査報告は遺構編が刊行されているが遺物は未報告で、本稿で紹介する礫石経はその一部にあたる。検出された遺構の解釈は狭川真一によってなされ、礫石経が帰属する遺構ST200は心宗庵に係わる祖師堂の地下遺構の可能性があり（狭川2011年）、地下に埋葬された複数の五輪塔で供養された対象者は、推定心宗庵に属した歴代継嗣の僧侶たちと思われる（第3～5図）。扁平な緑色片岩はST200の土坑内に矩形に積み上げられ、それ以外の遺構面や墳墓にもみられた。ST200の土坑は13世紀後半代の遺物を含み、14世紀中頃には埋められて上部に東西北面は2間、南面は3間の（南北3.12m、東西3.24m）の礎石建ちの祖師堂が建てられたとみられている。

礫石経の石材は緑色片岩の川原石で、観世音寺子院群と呼ばれる四王寺山裾の丘陵地に広く存在するが、ほぼ中世墓地の分布域と重なって出土している。石自体は四王寺山南斜面には母岩がなく、山の北側を流れる宇美川水系にまでいかなければ入手できない搬入材である。観世音寺子院群においては推定金光寺跡と推定西福寺（最福寺）跡でも緑色片岩の川原石に墨書された礫石経が出土している。

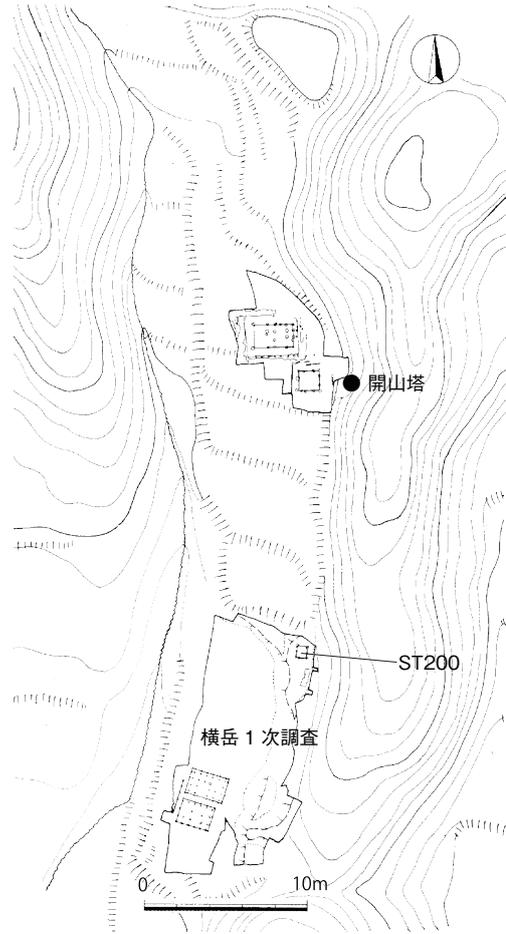
本稿では太宰府市が発掘調査した横岳遺跡1次調査の遺構ST200から出土した礫石経について、それに墨書された文字について報告し若干の考察をする。

2 横岳遺跡1次ST200出土の礫石経

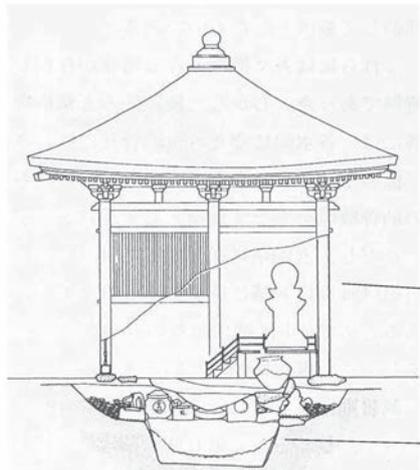
太宰府市横岳1次調査出土の礫石経についてはST200を中心に25点の資料について解読し、該当する経典を推定している。出土した手のひら大の緑色片岩の川原石は数千個体に及び、正確なカウントはできていないが、そのうち墨書のある石は1割台にも満たない少量の遺物である。墨書は扁平な川原石のA、B両面にあるものと片面のみのものがある。番外で推定西福寺（最福寺）跡（大宰府史跡第78次調査SG2130 九州歴史資料館1983年）出土の内容にも触れている。以下に詳細を示す。



第1図 中世太宰府の寺院跡



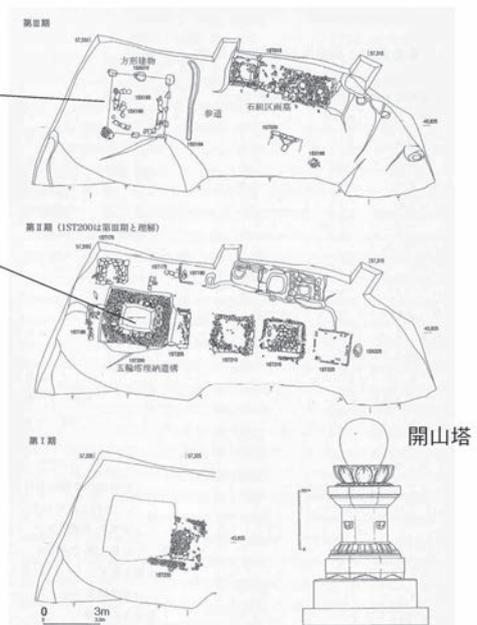
第2図 崇福寺推定心宗庵跡の調査



第4図 ST200 上部の祖師堂想定図 (狭川 2011 より)



第5図 横岳 1次 ST200 検出状況



第3図 横岳 1次 ST200 周辺の変遷 (狭川 2011 より)

○資料001（第6図）S-200灰茶土

A面 法華経 五百弟子受記 第八

「干種性」「以方便知見」「衆生」

（原文）※太字は読解できた文字の該当箇所

若干種性。以方便知見。而為説法。拔出衆生。

B面 法華経 五百弟子受記 第八

「宣唯佛」「佛告諸比丘汝等見」「那弥多羅尼」「中」「最為」

（原文）

言不能宣。唯佛世尊。能知我等。深心本願。

爾時佛告。諸比丘。汝等見是。富楼那弥多羅尼子不。我常称其。於説法人中。最為第一。

○資料002（第6図）S-200灰茶土

A面 不明

「七」「全」「七」「十二」

○資料003（第6図）S-200灰茶土

A面 不明

「見」「金剛」

○資料004（第6図）S-200灰茶土

A面 觀世音菩薩普門本 第二十五

「身」「身得度」「得度」「身得度」「羅門身得度者即現婆羅」「応以比丘比丘尼優婆」

（原文）

小王身而為説法応以。長者身得度者即現長者身而為説法応以居。士身得度者即現居士身而為説法応以。宰官身得度者即現宰官身而為説法応以婆羅門身。得度者。即現婆羅門身。而為説法。応以比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。得度者。即現比丘。比丘尼。優婆塞。

○資料005（第6図）S-200灰茶土

A面 法華経 法師本 第十？

「若」「有」「三善」「諸佛」「阿耨多羅三藐三菩提」

（原文）

若復有人。受持。読誦。解説。書写。妙法華経。乃至一偈。於此経卷。敬視如佛。種種供養。華香瓔珞。抹香。塗香。燒香。繪蓋。幢幡。衣服。妓樂。乃至合掌恭敬。藥王。当知是諸人等。已曾供養。十万億佛。於諸佛所。成就大願。愍衆生故。生此人間。藥王若有人問。何等衆生。於未來世。当得作佛。応示是諸人等。於未來世。必得作佛。何以故。若善男子。善女人。於法華経。乃至一句。受持。読誦。解説。書写。種種供養経卷。華香瓔珞。抹香。塗香。燒香。繪蓋。幢幡。衣服。妓樂。合掌恭敬。是人一切世間。所応瞻奉。応以如来供養。而供養之。当知此人。是大菩薩。成就阿耨多羅三藐三菩提。

○資料006 (第6 図) (第7 図) S-200底石

A面 法華經 提婆達多本 第十二

「妻子奴婢僕從頭」「腦身肉手足不惜軀命」「無量為於」「捨国位」

(原文)

国城妻子。奴婢僕從。頭目髓腦。身肉手足。不惜軀命。時世人民。寿命無量。為於法故。捐捨国位。委政太子。

○資料007 (第6 図) S-200裏込め

A面 法華經 分別功德品 第十七

「阿」「說是如来」「百八十万億那」「復有千倍菩薩」「得聞持陀羅」「世界微」

(原文)

阿逸多。我說是如来。寿命長遠時。六百八十万億。那由他。恒河沙衆生。得無生法忍。復有千倍。菩薩摩訶薩。得聞持陀羅尼門。復有一世界。微塵数菩薩摩訶薩。

○資料008 (第6 図) S-200裏込め

A面 無量義經 功德品

「發」「此無」「若人」「都不信有罪」「是經示之」「便強化令」「發其人」「即放」「是經」「德」「善男子」

(原文)

堅固戒忍兼行檀度。深發慈悲。以此無上大乘無量義經。廣為人說。若人先來都不信有罪福者。以是經示之。設種種方便強化令信。以經威力故。發其人心欬然得迴。信心既發。勇猛精進故。能得是經威德勢力得道得果。是故善男子善女人。

○資料009 (第6 図) S-200裏込め

A面 不明

「女」「如是」

○資料010 S-200裏込め西

A面 法華經 觀普賢菩薩行法經 (結經 懺悔經)

「生三」「者即持仏身」「知是人即是諸仏」「諸仏如来真」「法子汝行大乘不断」「汝今」「諸仏」「是語時行者」「無量世界地平如掌無」

(原文)

出生三世諸如来種。持此經者。即持仏身。即行仏事。当知是人。即是諸仏所使。諸仏世尊。衣之所覆。諸仏如来。眞実法子。汝行大乘。不断法種。汝今諦觀。東方諸仏。說是語時。行者即見。東方一切。無量世界。地平如掌。無諸堆阜。岳陵荆棘。

B面 法華經 觀普賢菩薩行法經 (結經 懺悔經)

「相應復更得」「百千万億」「千万億」「無量諸佛」

(原文)

身心歡喜。無諸惡想。心純是法。与法相應。復更得。百千万億。旋陀羅尼。復更廣見。百千万億。無量諸佛。是諸世尊。

○資料011（第7図）S-200裏込め西

A面 法華経 無量義経（開経）

「菩薩」「色」「恒河沙」「百千佛」

（原文）

菩薩眷属。亦復如是。大衆雲集已。見釈迦牟尼佛。举身毛孔。放金色光。一一光中。有百億化佛。諸分身佛。放眉間白毫。大人相光。其光流入。釈迦牟尼佛頂。見此相時。分身諸佛。一切毛孔。出金色光。一一光中。復有恒河沙。微塵数化佛。爾時普賢菩薩。復放眉間。大人相光。入行者心。既入心已。行者自憶。過去無数。百千佛所。

○資料012（第7図）S-200裏込め西

A面 阿弥陀経

「佛」「佛」「佛如是」「各」「其」「覆三千」

（原文）

不可思議功德。東方亦有。阿閼鞞佛。須弥相佛。大須弥佛。須弥光佛。妙音佛。如是等。恒河沙数諸佛。各於其国。出広長舌相。徧覆三千大千世界。

○資料013

A面 無量寿経下？

「佛告」「薩往生」「勒者」

（原文）

生彼佛國。佛告彌勒。於此世界有六十七億不退菩薩。往生彼國。一一菩薩已曾供養無数諸佛。次如彌勒者也。諸小行菩薩及修習少功德者。

○資料014（第7図）S-200裏込め西

A面 法華経 序品

「妙光」「堅固阿耨多羅三」「菩提」「者三」「百千万億佛」「道其最」

（原文）

妙光教化。令其堅固。阿耨多羅三藐三菩提。是諸王子。供養無量。百千万億佛已。皆成佛道。其最後成佛者。

○資料015

A面 法華経 信解品 第四

「五十歳」「四方以来衣食」「先来」「宝無量金」

（原文）

至五十歳。年既長大。加復窮困。馳騁四方。以求衣食。漸漸遊行。遇向本国。其父先来。求子不得。中止一城。其家大富。財宝無量。金銀。瑠璃。珊瑚。琥珀。頗黎珠等。

○資料016（第7図）S-200裏込め西

A面 不明

「利」「局女当命」

○資料017 (第7図)

A面 觀普賢菩薩行法經 (懺悔經)

「語讚歎邪見」「無益語」「惡業闕遣壞乱法」「衆罪今悉」「是語已五」「方佛合」「長跪当作」「無量無」
(原文)

妄言綺語。惡口兩舌。誹謗妄語。讚歎邪見語。說無益語。如是衆多。諸雜惡業。闕遣壞乱。法說非法。如是衆罪。今悉懺悔。諸世雄前。作是語已。五体投地。遍礼十方佛。合掌長跪。当作是語。此舌過患。無量無辺。諸惡業刺。

○資料018 (第7図)

A面 法華經 安樂行品 第十四

「經是諸如来」「力之王」「今乃与之文殊師利」

(原文)

此法華經。是諸如来。第一之說。於諸說中。最為甚深。末後賜与。如彼強力之王。久護明珠。今乃与之。文殊師利。此法華經。諸佛如来。

○資料019 (第7図) S-200裏込め東

A面 金剛般若波羅蜜經

「至無有少」「是名阿耨多羅三藐三」「復次」

(原文)

乃至無有少法可得是名阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。

○資料020 (第7図) S-200裏込め北

A面 阿弥陀經

「名」「是諸」「阿弥陀」

(原文)

其佛国土尚無三惡道之名。何況有實。是諸衆鳥。皆是阿弥陀佛。

○資料021 (第7図) S-200裏込め南

A面 不明 解脱道論?

「光明時」「如巖」「三十」「色一切」「其花」「其」

○資料022 (第7図) S-200裏込め南

A面 無量寿經上

「說我得佛」「界諸天人民」「作禮」「至如佛」「身若有」

(原文)

設我得佛、十方無量不可思議諸佛世界諸天人民、聞我名字、五體投地、稽首作禮歡喜信樂、修菩薩行、諸天・世人、莫不致敬。若不爾者、不取正覺。設我得佛、國中入天、欲得衣服、隨念即至。如佛所讚應法妙服、自然在身。若有裁縫・擣染・浣濯者、不取正覺

○資料023（第7図）S-200裏込め南

A面 不明

「記」「得未」「大若」「自施世」「人」「十」

○資料025（第9図）S-200灰茶土N

A面 妙法蓮華経 分別功德品 第十七

「時弥勒菩薩」「起偏袒右肩合掌」「而説偈言佛説希」「曾聞」「大」

（原文）

爾時弥勒菩薩。從座而起。偏袒右肩。合掌仏向。而説偈言仏説希有法。昔所未曾聞。世尊于大力。壽命不可量。

○資料027（第9図）S-200灰茶土N

A面 佛説摩訶般若波羅蜜多心経

「摩訶般」「自在菩」「照見五」「不異空」「色受想」「空相不生不」「色無」

（原文）

佛説摩訶般若波羅蜜多心経 觀自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是 舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色 無受想行識

○資料029（第7図）S-200灰茶土N

A面 不明

「人」「七」「是」

○資料031（第9図）S-200灰茶土N

A面 無量義経 功德品

「忍」「佛国」「賞安楽」「第七功」「不」

（原文）

生死怨敵自然散壞證無生忍。半佛国宝封賞安楽。善男子。是名是経第七功德不思議力。

○資料 番外（第9図）大78_SG2130出土礫石経_大宰府史跡57年度概報

A面 法華経 序品 第一

「兵衆」「而撃」「又見菩薩寂」「天龍恭敬」「喜又見菩薩」「放光」「獄苦 令入佛道」「又見佛子未」「眠」

B面 法華経 序品第一（A面から90度転位）

「経行林中」「佛道又見具戒」「威儀無欠」「佛道又」「佛子住」「辱力」

（原文）

破魔兵衆 而撃法鼓 又見菩薩 寂然宴默 天龍恭敬 不以為喜又見菩薩 処林放光 地獄苦 令入佛道 又見佛子 未嘗睡眠 経行林中 勤求佛道 又見具戒 威儀無欠 浄如宝珠 以求佛道 又見佛子 住忍辱力

3 出土した礫石経

今回解読できた経典は、文字の大きさや文字数は様々で、多いもので片面100文字程度、少ないもので20文字程度の文が記されていた。似た字体もあるが全体的に書き方や文字の大きさなどはバラバラであった。墨書の残存状況は同じ面であっても明瞭な文字から消えかかった文字まであり、埋没環境により失われた墨書も多数あったと想像される。読解できた経典は以下の通りであった。

- ・無量義経（功德品）、
- ・法華経（序品第一、信解品第四、五百弟子受記第八、法師品第十、提婆達多品第十二、安樂行品第十四、分別功德品第十七、觀世音菩薩普門本第二十五）、
- ・觀普賢菩薩行法経、
- ・無量寿経上、下
- ・般若波羅蜜多心経
- ・金剛波羅蜜経、
- ・阿弥陀経

『無量義経』、『妙法蓮華経』、『觀普賢菩薩行法経』の法華三経を主体に、『金剛経』と浄土三部経の一つである『阿弥陀経』が含まれている。

礫石経が出土した横岳1次調査ST200は13世紀に形成以された火葬墓を解体し、地下に方形の穴を掘って墓石を再配置した遺構で、礫石経も初期に置かれた原位置から動いたものとみられる。そういった要因もありながら文字の読解の結果、長文の経典の全てを複数の石に書写した痕跡は今回の解析では確認できなかった。字体や文字の配置、くせなどからも統一性を欠く複数の手により書写されたものと思われる。

礫石経は至近にあった觀世音寺子院群の一つである推定金光寺跡と推定西福寺（最福寺）跡でも出土している。前者は時宗系で後者は律宗系の寺院であったと推定されていることから、礫石経の使用は宗派を越えた地域通有の行為であったとも考えられる。推定西福寺（最福寺）跡出土例（太宰府史跡78次SG2130）はやはり法華経の序品であった。網干善教（1994年）が指摘するように、全国で出土した礫石経には法華信仰の所依の経典である「法華三経」特に「妙法蓮華経」が書写される場合が多いが、禅宗系寺院であった崇福寺の塔頭である横岳1次調査地点で出土した礫石経の多くは法華三経で、全国的な傾向と整合的な内容であった。

4 太宰府の礫石経

太宰府で出土する礫石経は、遺物の分布状況から葬送や追善供養との結びつきが強く、寺院が帰属する宗派や宗門の教義を越えた存在で、礫石は墓を構成する部材そのものでもあり、この現場で出土した礫石経は、長文の一つの経典全てを分割して書写した可能性が低いことから、墨書する行為に呪術性があったものと考えられる。少し踏み込んで言えば、当該地域には13世紀から14世紀の時期に寺院を越えた造墓や葬送、墓前供養を賄う集団があり、彼らが他所から多量の緑色片岩の川原石を持ち込み、呪術的な手法でことをおこなったものと推測される。

2023年12月22日脱稿

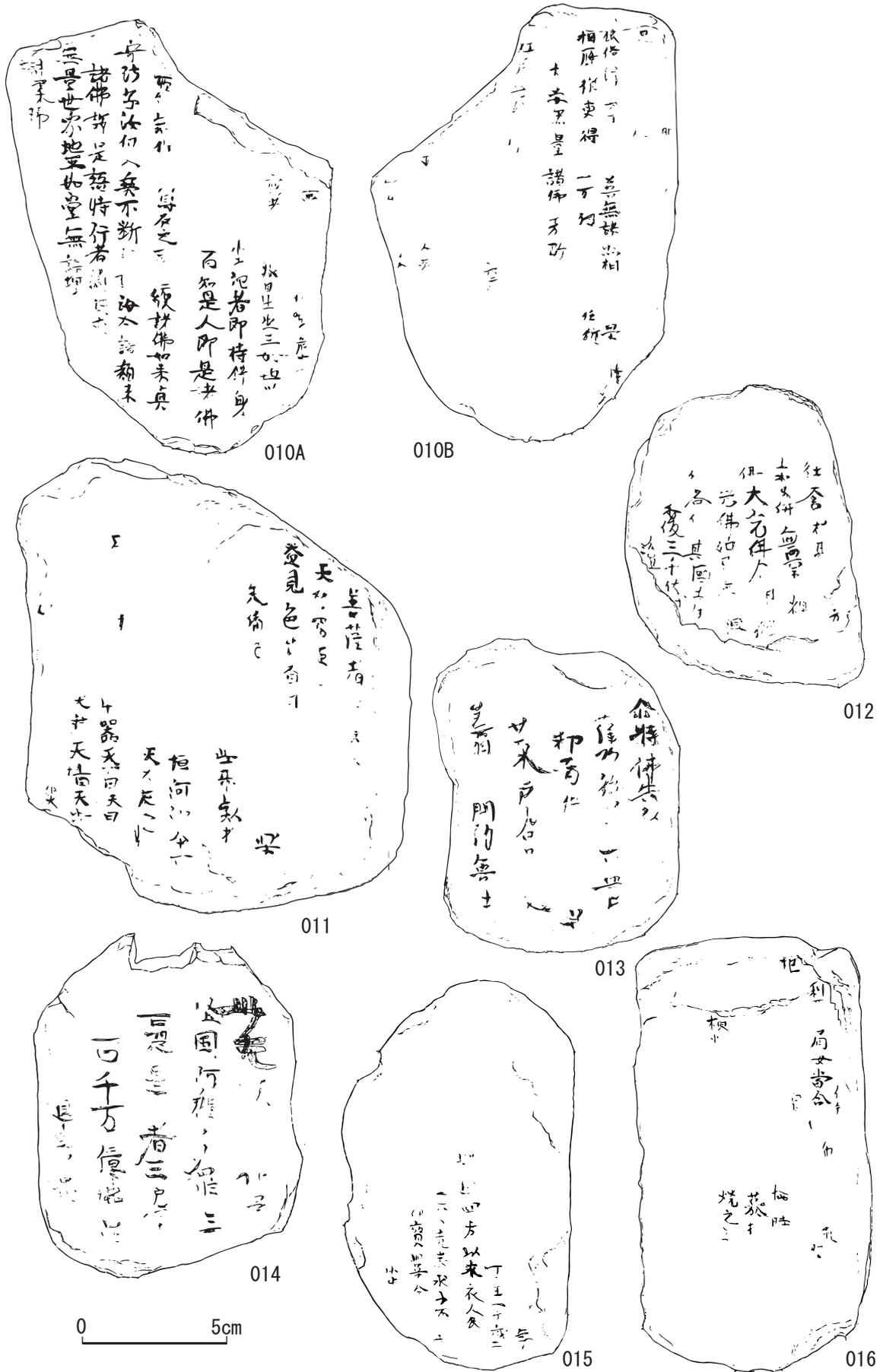
番号	遺構番号	層位	A面		B面		主要文字	法量	図版
1	S-200	灰茶土	法華経	五百弟子受記 第八	法華経	五百弟子受記 第八	干種性、以方便知見、衆生、宣唯仏、仏告諸比丘汝等見、那弥多羅尼、中、最為	9.5×7.6	6
2	S-200	灰茶土	不明		無		七、全、七、十二、四、微	11.1×10.3	6
3	S-200	灰茶土	不明		無		見、金剛	8.1×5.7	6
4	S-200	灰茶土	法華経	觀世音菩薩普門本 第二十五			身、身得度、得度、身得度、羅門身得度者即現婆羅、陀以比丘比丘尼優婆	17.3×12.2	6
5	S-200	灰茶土	?	法華経法師品 第十?	無		若有、三善、諸仏、阿耨多羅三藐三菩提	13.0×9.2	6
6	S-200	底石	法華経	提婆達多品 第十二	無		妻子奴婢僕從頭、腦身肉手足不惜壽命、無量為於、捨國位	10.0×9.0	6
7	S-200	ウラゴメ	法華経	分別功德品 第十七	無		阿、說是如來、百八十萬億那、復有千倍菩薩、得阿耨陀羅、世界微	10.2×9.8	6
8	S-200	ウラゴメ	法華経	觀音菩薩行法経	無		經者即持仏身、當知是人即是諸仏、尊衣之、覆諸仏如來真実法乎汝行大衆不斷、汝今、諸仏、是語時行者、無量世界地平如掌無諸維	10.1×17.2	6
9	S-200	ウラゴメ	不明		無		女、如是	8.0×14.2	6
10	S-200	ウラゴメ西	法華経	觀音菩薩行法経（懺悔経）	法華経	觀音菩薩行法経（懺悔経）	生三、者即持仏身、當知是人即是諸仏、諸仏如來真、法乎汝行大衆不斷、汝今、諸仏、是語時行者、無量世界地平如掌無百千萬億	15.2×11.5	7
11	S-200	ウラゴメ西	法華経	無量義経（開経）			菩薩、色、恒河沙、百千	15.6×13.0	7
12	S-200	ウラゴメ西		阿彌陀経	無		仏、仏如是、各、其、覆三千	10.5×8.1	7
13	?	?	觀無量壽経?	下	無		仏告、薩往生、勸者	11.0×8.0	7
14	S-200	ウラゴメ西	法華経	序品	無		妙光、堅固阿耨多羅三藐三菩提、者三、百千萬億仏、遇其數	12.1×9.3	7
15	?	?	法華経	信解品 第四	無		五十歳、四方以來衣食、先來、宝無量金	13.6×8.1	7
16	?	?	不明		無		利、局女当命	15.1×8.0	7
17	?	?	觀音菩薩行法経（懺悔経）		無		語讚歎邪見、無益語、惡業開遣壞乱法、衆罪、是語已五、方仏合、長跪当作、無量無	11.0×12.5	8
18			法華経	安樂行品 第十四	無		経是諸如來、力之王、今乃与之文殊師利	15.0×9.4	8
19	S-200	ウラゴメ東	金剛般若波羅蜜経		無		至無有少、是名阿耨多羅三藐三、復次	17.0×12.5	8
20	S-200	ウラゴメ北	阿彌陀経		無		名、是諸、阿彌陀	11.8×7.0	8
21	S-200	ウラゴメ南	不明		無		光明時、如嚴、三十、色一切、其花、其	11.6×10.2	8
22	S-200	ウラゴメ南	觀無量壽経	上	無		說我得佛、界諸天人人民、作禮、如佛、身若有	11.6×12.2	8
23	S-200	ウラゴメ南	?		無		記、得未、大若、自施世、人、十	16.2×12.0	8
24	S-200	ウラゴメ南	?		無		20.0×12.1		
25	S-200	灰茶土	法華経	分別功德品 第十七	無		時弥勒菩薩、起偏袒右肩合掌、而說偈言仏說希、曾聞、大	14.3×9.5	9
26	S-200	灰茶土	?		無		11.4×12.0		
27	S-200	灰茶土	法華経	觀世音菩薩普門本 第二十五	無		摩訶般、自在菩薩、照見五、不異空、色受想、空相不生不、色無	13.0×10.1	9
28	S-200	灰茶土	?		無		11.8×9.4		
29	S-200	灰茶土	?		無		人、七、是	14.6×11.3	9
30	S-200	灰茶土	?		無		9.8×8.8		
31	S-200	灰茶土	法華経	無量義経 功德品	無		忍、仏国、賞安樂、第七功、不	9.9×6.0	9

横岳 1 次写経石分類表

【参考文献】

網干善教「関西大学博物館蔵の礫石経について」『関西大学博物館彙報』1994年関西大学博物館
『横岳遺跡－遺構編－』（横岳遺跡1次調査）1999年太宰府市教育委員会
『大宰府史跡－昭和57年度発掘調査概報－』1983年九州歴史資料館
山村信榮「太宰府の中世寺院と都市」『中世の都市と寺院』2005年高志書院
狭川真一「南北朝時代の墳墓」『中世墓の考古学』2011年高志書院

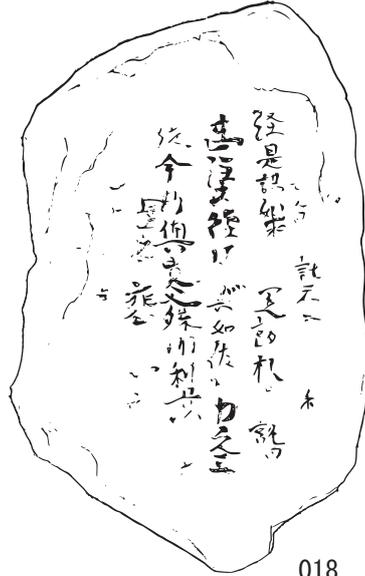
（やまむら・のぶひで 太宰府市教育委員会文化財課長）



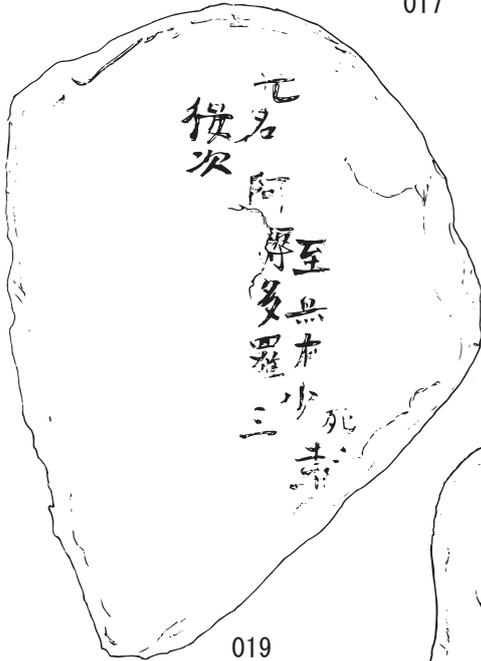
第7図 礫石経（横岳1次）2



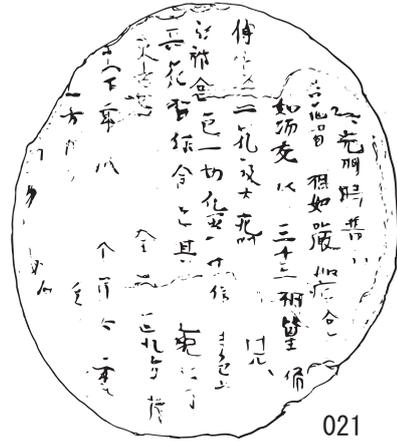
017



018



019



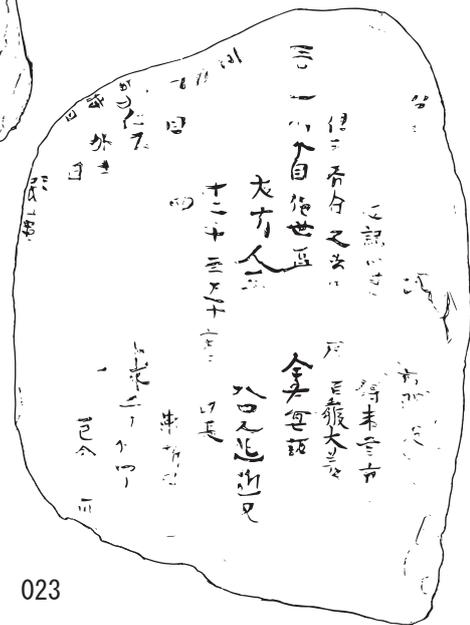
021



020



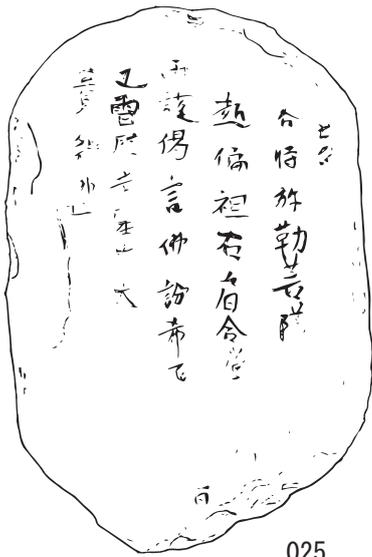
022



023

0 5cm

第8図 礫石經 (横岳1次) 3



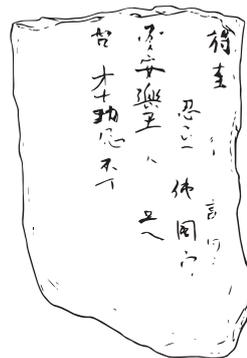
025



027

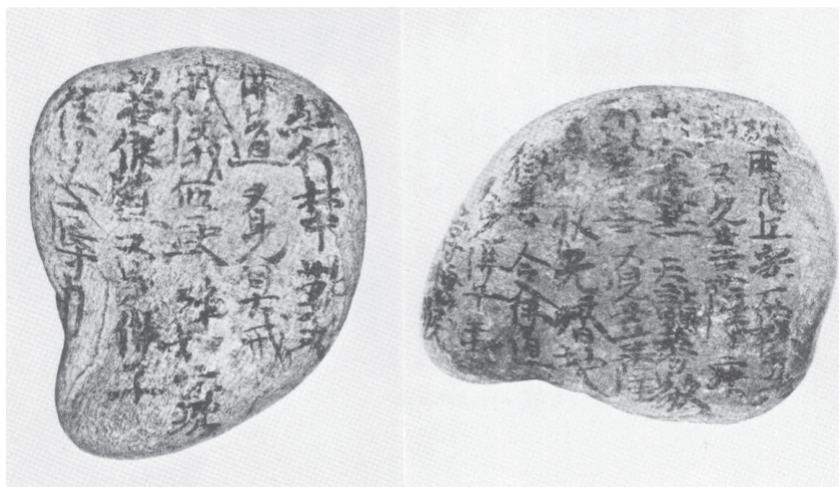


029



031

0 5cm



番外 推定西福寺跡（大宰府史跡 78 次 SG2130）出土礫石経

第9図 礫石経（横岳1次，大宰府史跡78次）4